

# 入学者のことば

## 入学者のことば

歯学科1年 内田 俊



「知識不足は許されない。」早期臨床実習Ⅰの場において、私はそれを痛感した。ガンの宣告をにっこりとした笑顔で聞いている91歳のおばあちゃん。歯に詰めた金属からアレルギー症

状が起きている可能性があるという事実を真剣に聞いている30代の女性。その方たちのまなざしはどちらも、先生を信用しきっていた。ある先生に「自分が知らないことを患者様から質問されたらどうするんですか。」と興味本位で聞いてみた。すると「自分の専門分野について知らないなんてことは許されない。知識不足は命に直結する。」と返答をいただいた。今後他人の命を預かる医療従事者になる上で、自らの知識不足は許されず、人の健康や命に最後までひたむきに向き合わなければならぬと感じた瞬間だった。同時に、将来の自らの職業に骨をうずめる覚悟と、自分を犠牲にしても患者様を救うという意志を再確認した瞬間でもあった。

改めて、私たち歯学部1年生の60名は現在五十嵐キャンパスで教養課程の勉強をしている。来年からは旭町キャンパスに移るのだが、どちらにせよ山梨というマイナーな県で育った私にとって、この意味もなかつた広い田んぼの片隅で6年間過ごしていくには、少し落ち着かない気もするが「住めば都」という言葉を信じてのびのびと過ごしていきたいと思う。地元には腐るほどあるあのピカピカの緑の看板、そうファミリマートの看板はこちらではあまり見かけず、代わりに、何を節約したいのか不明だがSAVE ONの看板ばかり見かける。加湿器なんて持っているのは新潟

県内で3人くらいだろう。そのくらいジメジメしている。でもやはりコメとマグロは美味しい。いずれ都になるであろう場所はそんなところだ。

最近では、1年生同士の仲もずいぶん深まり、男女問わず良い人間関係を築き始めていると実感している。今後何年間も共に年を重ねていく中で、仲間のさまざまな顔を見ることになるだろうが、というかすでにおかしな一面、いや三面ほど見ているが、それはさておき、お互いに切磋琢磨し合い自他のためになるような大学生活を送っていきたいと思う。

## 入学者のことば

歯学科1年 大西 美貴子



履修登録や90分授業、慣れないパソコン操作にあたふたしていた4月から早3ヶ月がたち、今では大学生活や一人暮らしにも慣れました。また、歯学部の合宿や運動会や日々の授業を

通して友人達との仲も深まり、充実した毎日を送っています。

私は今年の1月に歯学部受験を決め、早期臨床実習という科目があることを決め手に新潟大学を受験しました。早期臨床実習は1年生唯一の専門科目であり、新潟大学歯学部の特徴的な科目でもあります。実習は患者様役・患者様付き添い・治療見学の3つからなり、白衣とネームプレートを身に着け病院に出ます。先に述べましたが、私は1月に歯学部受験を決めたため、歯科医療や自分の将来に対してはつきりとしたイメージを持っていないまま入学し今後少し不安がありました。だから、1年生の早い段階で患者様役として先輩の治療を受けたり、病院内の歯科診療科を見て「自

分が5年後にどうなっているべきか」や「歯科医療にはどういうものがあるか」を知ることができたこの実習は、私にとって、入学する前に思っていたよりも大切な科目となりました。

部活は、歯学部バスケットボール部に入りました。小学生の頃から続けていたので入部したのですが、入部して本当によかったと思っています。人数は少ないですが、工夫しながら楽しく練習を行っていますし、先輩も素敵な人達ばかりで、授業について聞いたり日常の出来事を話したりと、いい関係を築けてきているように思います。

歯学部は1学年60人という小さい学部です。この60人は単に同級生であるだけでなく、歯科医療従事者を目指す仲間でもあります。残り5年間、多くの困難に直面すると思います。しかし、歯科医療を学んでいく中で理想の歯科医師像を見つけ、それに向けて仲間と支えあいながら勉学に励むとともに、楽しい思い出をつくり、充実した学生生活を送りたいと思います。

## 入学者の言葉

口腔生命福祉学科1年 広瀬里佳



新潟大学に入学して早いことにもう3ヶ月がたちました。同じ高校出身の人が多く、寂しいとは思いませんでしたが、一人暮らしや友達のことに対する不安がありました。しかし、入学してすぐに行われた歯学部の合宿でそんな不安はすぐになくなりました。学科の枠を超えてグループを組み、ディスカッション等を行いました。仕切るのが上手い人、進んでアイデアを出す人、意見をまとめる人、さまざまな人がいる中でみんながそれぞれにできることをして協力していくうちにだんだん仲良くなっていきました。同じ目標を持ち、4年間一緒に勉強していく仲間をこれからも大切にしていきたいです。

また、大学の授業は高校と違って自分で時間割を組むなど自主的な行動が必要となってきます。

授業の連絡がメールできたり、レジユメを事前に印刷し持参するといったことにはじめは戸惑いました。さらに金曜日の早期臨床実習では、白衣やユニフォームを着て病院内で活動を行います。治療を見学し、ユニット内での歯科衛生士の仕事を教わることで将来の自分の役割がはつきりとなりました。そして体調管理や身だしなみを整えたり、患者様に道を聞かれ案内したりしているうちに医療従事者になるんだという自覚をもつことにつながりました。

それから大学生活を送るにあたって、部活動やサークル活動を楽しみにしていました。私は歯学部バスケットボール部と医歯学際実行委員会に所属しています。男子バスケット部のマネージャーをしていますが、女子部の先輩方も優しくくださって、みんな面白い方々ばかりで部活に行くのが毎回楽しみです。

これからいろいろ大変なこともあると思いますが、みんなで助け合い、歯学部で過ごす4年間で精一杯楽しみたいと思います。

## 入学者のことば

口腔生命福祉学科1年 牧口由依

大きな期待と少しの不安を抱えて迎えた入学式から早くも3ヶ月が経とうとしています。先が何も見えない中で新しい環境に戸惑っていましたが、たくさんの友達ができ、新生活にも慣れ、



充実した毎日を送っています。

1年次の前期は、週1回旭町キャンパスで早期臨床実習が行われています。昨年新しくなった医歯学総合病院という恵まれた環境で、新しいユニフォームを着て様々な実習をしています。このような早い時期から現場での経験を積むことができるのは、新潟大学歯学部の魅力でもあります。ユニフォーム姿で病院にいと、歯科衛生士に1歩近づけたような気がします。初めてユニフォームを着たときなどは、あまりの嬉しさにみんなで写真の撮り合いをしました。

新潟大学に入学することが決まってから、新しい友達や仲間を作ることをとても楽しみにしていました。私は歯学部バスケットボール部と、全学の総おどりサークルに所属しています。バスケットボール部では、仲の良い同学年と優しい先輩方とのつながりを強くすることができます。また、全学のサークルでは、他の学部の友達や先輩方と交流することができます。主によさこいを踊るサークルで、新潟の各地域や全国のイベントに参加するので、そこで出会った人とも触れ合うことができます。私にとって、たくさんの人とかわり、交流を深めていくことができる最高の環境です。

歯科衛生士は、人と接する仕事です。専門知識や技術も必要ですが、上手くコミュニケーションをとることも大切だと思います。これから4年間の中で、ひとつひとつの出会い、人と人とのつながりを大切に、信頼されるような人になれるように努力したいと思います。将来は、持ち前の明るさと前向きさを生かして、たくさんの人から必要とされるような歯科衛生士になりたいです。

## 入学者のことは

生体歯科補綴学分野 石田 光  
大学院1年



4月に本学医歯学総合研究科の生体歯科補綴学分野に入学しました。昨年は当院のプログラムで研修させて頂き、研修後期から冠ブリッジ診療科にお世話になっており、そのまま引き続き入局しました。なので、入学したというより進級した感覚です。入学してはや3ヶ月が経ちました。ふと大学院生活の16分の1が終わってしまったことを思い、4年間は短く、成果を挙げるにはより一層の努力と覚悟が必要であると感じているところです。

私が大学院の進学を考え始めたのは、6年時の臨床実習の時です。治療の難しさや多種多様な考え方に触れ、補綴治療をじっくり腰を据えて学びたいと漠然と考えていました。それが、卒業して研修医として臨床の経験を積むにつれ、自分の中でまとまって行きました。欠損補綴にはその病態を捉え、診断し、治療方針を立てることがいかに重要であるか、どのようにそれを遂行して行くか、そして自分の行った処置が適切であったかどうかを評価することの大切さ。これらは担当医制で、じっくり時間をかけ考え、それを実現でき、長期に渡って記録を採れる環境で、熱心に指導して下さる先生達がいないと難しいと考えました。

さらに、補綴治療をすすめる上で避けて通れないのが、力のコントロール。特に私は、咬合が歯周組織やインプラントにどのように影響を及ぼすかに興味を持ちました。まだ研究テーマははっきりとは決まっていませんが、これから4年間で少しでも日々の臨床に繋がられるよう努力して行きたいです。

思いのままに書き連ねて参りましたが、まだまだ、未熟者で先生方にはご迷惑とご心配をかける毎日です。まずは一つ一つ確実に取り組み、よく考え、日々研鑽に励んで行きたいと思いますので、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

## 入学者のことは

小児歯科学分野 花 崎 美 華  
大学院 1 年



学生時代 6 年間逃げ続けたこの歯学部ニュースを書くという機会が、大学院 1 年目にしてとうとう巡って参りました。今年小児歯科学分野大学院に入学しました花崎です。

私が小児歯科学に意識を向けたのは学生 6 年の春でした。日々総合診療部での臨床実習に追われ、歯周病について語り、義歯を調整したりしながら、自分の頭の中から治療対象として小児という存在がすっかり消え去っていました。6 年生の夏には翌年の研修場所を決めなければなりません。悠長に構えていた私も慌てて地元や新潟市内の開業医・病院を見学して回りました。するとちらほらと小児が治療されているではありませんか。そこでしばらくぶりに脳内に小児が復活したのです。学生 6 年間で成人治療が十分なレベルに達したとはとても思っていないが、考え方の基礎の基礎くらいは身に付いたのではないかと思います。しかし小児については完全ノータッチ、生来あまり子供と戯れるのも得意ではなかったこともあり、いざ小児が目の前に来た時に何もできない自分の姿が明確なイメージとなり私を戦慄させ、気がつけば小児歯科での研修を希望していました。

研修が始まると、自分の知識のいかに不足しているかを実感すると同時に、専門的知識・技術がある小児歯科の先生方をとても頼もしく感じました。将来的に何か一つ、自分の強みとなるものを持ちたいと以前から考えていましたが、ずっとぴんとくるものがありませんでした。しかし数ヶ月小児歯科で過ごしてみて、幼少期に患児およびその保護者に口腔衛生についての興味付けをすることの意義や、乳歯列期の治療や永久歯への生え変わり時の治療や誘導など、患児の一生の口腔環境に関与できることにとてもやりがいを感じ、大学院進学を決めました。

現在のところ後悔もなく、毎日充実して過ごせ

ています。折角、今回もう 4 年間大学で学ぶ機会を得たので、この歯学部ニュース原稿執筆のように学生時代に逃げてしまっていたものにも立ち向かい、実りのある 4 年間にできるよう努力していきたいと思います。

## 大学院に入学して

口腔生命福祉学専攻 星 野 美 帆  
博士前期課程 1 年



口腔生命福祉学専攻博士前期課程に入学し 3 ヶ月がたちました。3 月に口腔生命福祉学科を卒業した翌日から働き始めたので昼間に歯科衛生士として障害のある方への診療の補助を行い、仕事の終わった夕方から夜に社会人大学生として学んでいます。大学院と仕事について共に段々と慣れてきたものの今後どのくらい忙しくなるのか、どのような仕事や学ぶ内容があるのか等、まだ分からないことも多く少しだけ不安を感じながら毎日を過ごしています。

私が大学院へ進学を決めたのは口腔生命福祉学科で過ごした 4 年間で歯科だけでなく福祉について学び、せっかく 2 つの分野について学んだのだから仕事にも両方の分野を生かしていきたいと思い、そのために知識とその生かし方をさらに学びたいと考えたからです。

大学院では講義の中で論文を読む機会が増える等より発展的な内容について学び、また自分で研究を行い論文を書くこと等を行います。講義の内容以外で学部生の頃と比べて一番違いを感じたのは講義の日程についてです。同期の 5 人中 4 人が社会人で仕事の都合と合わせないといけないこともあり、シラバスに書いてある日付ではなく先生方とのメールのやりとりで講義の日が決まります。そのため講義が少ない時期には自分が忘れていないか何回か以前のメールを確認したり、講義の前後等にみんなで今後の講義の予定について確認するようにしています。

仕事との両立は易しいことではなく、研究が始

まると本格的に忙しくなってくると思います。自分で決めた進路であり、またここで学んだことが自分自身の糧になってくれると思います。将来今までの自分について振り返った時にこの進路を選択して本当に良かったと思えるように頑張っていきたいと思います。

## 入学者のこぼ

口腔生命福祉学専攻 諏訪 加奈  
博士後期課程1年

口腔生命福祉学博士後期課程に社会人入学しました諏訪(すわま)加奈と申します(旧姓 市川)。私は、桐ダンスと国産マカロニ発祥で有名な新潟県加茂市で育ち、口腔生命福祉学科の1期生として入学しました。卒業後は、歯科衛生士として勤務しながら社会人大学院生として修士課程(現在は博士前期課程)で学び、今回更なる研鑽のため後期課程に入学させて頂きました。

さて、今回歯学部ニュースを書かせて頂くのにあたり、学生時代について振り返ってみました。まさか昔はあまり勉強好きではなかった自分がアラサーを目前に?(つい最近、同級生とも話題になりましたが……)現在のような機会を得ることができ、大学院生として学ぶことになるとは夢にも思いませんでした。周りの大人から「学生時代もっと勉強しておけばよかったと思うよ。今のうちにしっかり勉強しなさい!」などと言われてもその時はピンとこず、振り返ってみると以前の自分は、あっさり生きていたように思います。しかし、口腔生命福祉学学科に入学し、歯科と福祉の2つの分野を学び、歯科衛生士として働く中で、多くの方のご指導・ご支援、様々な経験をさせて頂き、自分の中で疑問・課題を持つこと、それを解決することや物事を深く知る・調べることがだんだん楽しくなってきました。様々な出会いの中で、物事に熱心に取り組める人や一生懸命な同級生達に刺激を受け、熱くなれるのもいいものだと思うようになりました。今回、再び学ぶ機会を得ることができましたので、歯科衛生士として働く中での疑問の解決を行いながら、新たな事を多く学びたいと思っております。そして、それをこ

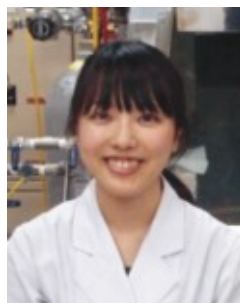


の春より携わらせて頂いている学生への教育の中にも生かしていきたいと思っております。

これからも、皆様どうぞよろしくお願い致します。

## 入学者のこぼ

口腔生命福祉学専攻 岸本 奈月  
博士後期課程1年



大学を卒業後、漠然ともう少し研究がやりたいと感じ、正直あまり深く考えずに選んだ新潟大学大学院口腔生命福祉学専攻。これが大正解でした。ここでは、口腔生命科学を基盤としながら、保健・医療と社会福祉学領域について、研究活動はもちろん、広く横断的に学ぶことができます。私は博士前期課程では口腔生命福祉学を専攻して学ぶとともに、摂食・嚥下機能回復部に所属し、臨床経験を積みました。研究では「口から食べることの大切さに興味を持ち、「経口摂取が口腔環境に与える影響」を臨床的に介入調査し、研究の成果を国内外の学会で発表する機会までいただきました。このような貴重な経験ができたのも、そのようなチャンスを与えていただいたことはもちろん、比較的自由に時間の取れる大学院生だからこそだと感じております。自由度の高いカリキュラムの下、自身が主体となって能動的に活動

できる環境と、熱心に指導・支援して下さる先生方や切磋琢磨し合える仲間たちに恵まれ、新潟での生活はとても充実した2年間でした。

この4月からは、博士後期課程に進学するとともに、新潟を離れ都内の大学病院で歯科衛生士として患者様の周術期管理を中心とした臨床経験を積んでおります。臨床も研究もやりたいという欲張りな私の願いを受け入れてくれた指導教授はじめ先生方には深く感謝しております。とはいつて

も後期課程は始まったばかり。最近は新しい仕事に慣れることに精一杯で、大学院の方はたとえば何とか課題をこなすばかりで研究はまだあまり進んでおりません。大学院と仕事の両立は、殊更活動の拠点が異なるため難渋すること多いかと思えます。しかし自分で選んだ道、二兎を追う者は二兎とも取るつもりで努力し、有意義なものにしたいと強く感じております。

